

中村 正教授 略歴と業績

I. 略 歴

1958年11月	三重県に生まれる
1981年3月	立命館大学法学部卒業
1983年3月	立命館大学大学院社会学研究科博士課程前期課程修了
1986年3月	立命館大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学
1988年4月	大谷大学文学部助手
1989年4月	立命館大学産業社会学部助教授
1994年9月	米国カリフォルニア州立大学バークリー校社会学部客員研究員
2001年4月	立命館大学大学院応用人間科学研究科助教授
2002年4月	立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授
2003年9月	オーストラリア シドニー大学教育学部客員研究員
2018年4月	立命館大学大学院人間科学研究科教授（研究科再編のため）
2024年3月	立命館大学定年退職
2024年4月	立命館大学特別任用教授・名誉教授

（主な学内役職歴）

1997年4月～1999年3月	教学部副部长
1999年4月～2000年3月	アドミッションズオフィス室長
2007年4月～2008年7月	教育開発支援センター長
2007年3月～2014年7月	教学担当常務理事
2007年4月～2009年3月	教学部長
2007年3月～2011年3月	教職教育推進機構長
2007年4月～2013年3月	立命館情報化推進機構長
2013年1月～2014年12月	総長特別補佐
2015年2月～2017年3月	学長特別補佐
2017年4月～2019年3月	立命館大学副学長
2018年4月～2020年3月	財団法人 大学コンソーシアム京都運営委員長
2019年4月～2020年3月	学長特別補佐
2019年4月～2021年3月	教養教育センター長

II. 専門分野

専門分野 社会学（含社会福祉関係）：社会病理学，臨床社会学，社会臨床学，男性学

担当科目 臨床社会学（産業社会学部），社会病理学（人間科学研究科），人間理解（教職研究科）

学 位 社会学修士（立命館大学，1983年3月）

研究課題 臨床社会学・社会臨床学の研究，DV・虐待の加害者臨床の実践と研究

所属学会 日本社会病理学会（会長），日本社会学会，日本犯罪社会学会，法と心理学会，対人援助学会（理事長）

Ⅲ. 主な研究業績

著 書（主なもの）

- 1.（単著）『「男らしさ」からの自由』（かがわ出版，1996年）
- 2.（単著）『家族のゆくえ』（人文書院，1998年）
- 3.（単著）『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』（作品社，2001年）
- 4.（共著）『家族の暴力をのりこえる—当事者の視点による非暴力援助論』（かがわ出版，2002年）
- 5.（共著・分担執筆）『ジェンダーで学ぶ教育』（世界思想社，2003年）
- 6.（共著・分担執筆）『病める関係性—ミクロ社会の病理（社会病理学講座第3巻）』（学文社，2005年）
- 7.（共著・分担執筆）『社会病理のリアリティ』（学文社，2006年）
- 8.（共著・分担執筆）『身体をめぐるレッスン 第4巻 交錯する身体』（岩波書店，2007年）
- 9.（共著・分担執筆）『家族社会学を学ぶ人のために』（世界思想社，2010年）
- 10.（共編著）『対人援助学の可能性—「助ける科学」の創造と展開』（福村出版，2010年）
- 11.（共著・分担執筆）『対人援助学の到達点』（晃洋書房，2011年）
- 12.（共著・分担執筆）『加害者臨床』（日本評論社，2012年）
- 13.（編著）『対人援助学を拓く』（晃洋書房，2013年）
- 14.（共著）『離婚紛争の合意による解決支援と子どもの意思の尊重』（日本加除出版，2014年）
- 15.（共著・分担執筆）『臨地の対人援助学』（晃洋書房，2015年）
- 16.（共著・分担執筆）『関係性の社会病理』（学文社，2016年）
- 17.（共著・分担執筆）『犯罪被害者と刑事司法』（岩波書店，2017年）
- 18.（共編著）『治療的司法の理論と実践』（第一法規出版，2018年）
- 19.（共著・分担執筆）『社会病理学の足跡と再構成』（学文社，2019年）
- 20.（共著・分担執筆）『どうする日本の家族政策』（ミネルヴァ書房，2021年）
- 21.（共著・分担執筆）『災厄を生きる—物語と土地の力』（国書刊行会，2022年）
- 22.（共著・分担執筆）『現代社会を拓く教養知の探究』教養教育研究会（晃洋書房，2024年）

翻 訳 書

1. ドナルド・ダットン『なぜ、夫は愛する妻を殴るのか—バタラーの心理学—』（中村正訳，作品社，2001年）
2. ドナルド・ダットン『虐待的パーソナリティ』（中村正監訳，明石書店，2011年）
3. ヘルムート・R・ワーグナー『アルフレッド・シュッツ—他者と日常生活世界の意味を問いつけた「知の巨人」』（共訳，明石書店，2018年）
4. デラルド・ウィン・スー『マイクロアグレッション—人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに

向けられる無意識の差別』（共訳、明石書店、2020年）

5. レイウィン・コンネル『マスキュリニティーズ—男性性の社会科学—』（共訳、新曜社、2022年）

論 文（2018年度以降の主論文）

1. 中村正（単著）「暴力は多様な顔をして関係性に宿ることを読み解く」『家族療法研究』35(1) 59-64, 2018年4月
2. 中村正（単著）「妄想＝暴走する男たち—ハラスメントの要の位置にある男性性ジェンダー」『臨床心理学』18(5), 561-565, 2018年9月
3. 中村正（単著）「治療的司法・正義の理論のために—ケアとジャスティスの統合をととした問題解決のための理論・実践・制度」『法と心理』18(1), 1-3, 6-13, 2018年10月
4. 中村正（単著）「つながりすぎないこと」『青少年問題』65号（秋季、第672）2-9, 2018年10月
5. 中村正（単著）「暴力の遍在と偏在—その男の暴力なのか、それとも男たちの暴力性なのか—」『現代思想』47(2) 64-76, 2019年2月
6. 中村正（単著）「ハラスメント加害者の更生はいかにして可能か—加害者への臨床心理社会的な実践をもとにして考える—」『日本労働研究雑誌』712号, 86-97, 2019年11月
7. 中村正（単著）「男たちの『暴力神話』と脱暴力臨床論—家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして—」『子どもの虐待とネグレクト』22(1), 50-56, 2020年4月
8. 中村正（単著）「パワーハラスメント加害者に対する行動変容の支援—ナラティブ・セラピーによる対話をとおして」『都市問題』17-22, 2021年6月号
9. 中村正（単著）「児童福祉において『男性問題としての暴力』をいかに扱うか—男親と『暴力と加害・責任』の対話を拓く試み」『子どもの虐待とネグレクト』23(3) 237-244, 2021年12月
10. 中村正（単著）「加害行為研究の視界—加害性、暴力性、暴力の文化、マイクロアグレッション—」『現代思想』50(9) 33-46, 2022年7月
11. 中村正（単著）「加害者の変容可能性をひきだすための対話」『精神科看護』59(3) 23-29, 2023年2月

Ⅳ. 社会における活動

1. 奈良少年刑務所での性犯罪再犯防止プログラム（2006年から2016年までスーパーバイザー）
2. 大阪市児童相談所・大阪府児童相談所・堺市児童相談所での虐待親面談と家族再統合実践
3. DV 加害男性等の男性問題相談（京都府委託事業）代表
4. 京都市男女共同参画センター男性相談スーパーバイザー
5. 特定非営利活動法人 京都コミュニティ放送「三条ラジオカフェ」副理事長、番組審議会会長など
6. 一般社団法人 UNLEARN 代表理事

現在の主な役職

内閣府男女共同参画会議「女性に対する暴力に関する専門調査会」委員、内閣府 DV 加害者対応に関する調査研究事業委員会座長、京都府男女共同参画審議会委員、京都府 DV 基本計画策定委員会座長、京都府亀岡市男女共同参画審議会委員、特定非営利活動法人きょうと NPO センター理事長、京都府 DV 基本計

画見直し委員会座長，日本社会病理学会長，対人援助学会理事長等

主な委員など

厚生労働省「日本における保護者支援プログラムの普及・啓発に関する調査委員会委員」，大阪府，東京都，福井県，箕面市，草津市，枚方市，豊中市，京丹後市，堺市の男女共同参画審議会，総合福祉計画委員会委員等，京都府 DV 基本計画策定委員会座長，京都コミュニティ放送副理事長・同放送局番組審議会委員長，独立行政法人教職員支援機構評議員等

以上